

大分県杵築市との連携概要書

自然の恵みを活かした魅力的なまち



杵築市は、平成17年10月1日に、旧杵築市、山香町、大田村が新設合併して誕生しました。「歴史と文化の薫り高さ豊かな感性があふれる街」を目指しています。

杵築市は、大分県の北東部、国東半島の南部に位置しており、東西約29km 南北約23km 総面積280.08km²で、県面積の約4.4%を占めています。別府湾に面する海岸地域から山間部に至るまで、地形は多様です。

また、東に大分空港、南には日出町を経て別府市・大分市に近く北は宇佐市と隣接し、大分空港道路や宇佐別府道路、大分自動車道の3本の高規格道路の連結点として交通の要衝となっています。宇佐市に近い市内の「立石峠」は、かつて旧豊後国と豊前国の境界でした。

東に伊予灘、南に別府湾と、東南部は眺望の美しい海岸線です。北は両子山から連なる山々が、西は鹿鳴越山系、雲ヶ岳等、北西部は200mから600m級のなだらかな山々に囲まれた自然豊かな山間地を形成しています。

地域の気候は、瀬戸内式特有の温暖な気候の恩恵を受け、年間平均気温は15℃程度、年間平均降水量も地域により差はありますが、約1,500mmで積雪も年に1、2回程度と殆どありません。

平成25年5月、杵築市を含む国東半島宇佐地域が、国際連合食糧農業機関（FAO）から世界農業遺産（GIAHS）に認定されました。国東半島は降水量が少なく、地形的に河川が短いため、水田農業を営むのに必要な水の確保が難しい地域でした。先人たちは多くのため池を作り、周辺のクヌギ林とつなぎ、限られた水を有効に活用する農林水産循環システムを作り上げました。

また、クヌギ林はため池に栄養分を供給すると共に、日本一の原木しいたけ栽培に活用されています。



- ◎行政区：大分県杵築市（平成17年10月1日に、旧杵築市、山香町、大田村が新設合併）
- ◎市長：永松 悟
- ◎交通：東京から飛行機で1時間30分（大分空港着）、バス・車で25分
- ◎面積：280.08km²
- ◎人口：30,601人、世帯：13,504世帯（H28.3.1現在）
- ◎地区数：行政区数 172（杵築地域84、山香地域74、大田地域14）
- ◎主産業：農林水産業、観光業、大分キャンノンマテリアルなどの先端技術産業
- ◎教育：小学校10校（児童1,422名）、中学校3校（生徒713名）、高校1校（生徒595名）

東京農業大学との関係

- 平成27年度から 都市農村共生・対流総合対策交付金（山村活性化支援対策）を活用し、干し椎茸の商品化等を通じた大田地区の地域活性化に取り組んでいる（平成29年度まで、3カ年事業）。コーディネーター：農山村支援センター竹田純一学術研究員 ほか
- 平成28年度には 上記事業の一環で、森林総合科学科 江口文陽教授を招いて椎茸に関する講習会を実施。

東京農業大学出身者

後藤 一水	杵築市役所福祉推進課（平成4年 農学部林学科）
綾部 浩太郎	綾部味噌（昭和61年 農学部醸造学科卒）
中野 勢三	中野酒造（昭和46年 農学部醸造学科卒）
中野 淳之	中野酒造（平成14年 応用生物科学部醸造科学科）
帯刀 勇人	大分県椎茸農協（平成20年 国際食料情報学部食料環境経済学科）
小形 雅彦	果樹園自営（昭和53年 農学部農業経済学科） ほか25名

今後の交流の可能性

- **地域づくり**
山香地区など市内各地区で地域活性化に資する取組を加速させる。
葉草の町づくりのための栽培環境・体制等整備
七島蘭（しちとうい）の栽培生産体制構築
学生による課題解決のための調査・研究及びインターンシップ
- **杵築ブランドづくり**
干し椎茸を使用した商品のブランド化
七島蘭（しちとうい）商品のブランド化
未利用・未活用資源を使用した商品化
- **景観づくり**
世界農業遺産認定地域にふさわしい農村景観づくり
教員及び学生による景観調査やワークショップ等の実施



◆東京農業大学の窓口教員

地域環境科学部地域創成科学科 宮林茂幸教授、入江彰昭准教授、町田怜子助教
国際食料情報学部食料環境経済学科 立岩壽一教授

◆杵築市の担当者

杵築市 農林課 板井 隆（いたい たかし）

〒873-0001 大分県杵築市大字杵築377番地 1 Tel:0978-62-1809 / Fax:0978-62-1033

E-mail:sekai-nougyou-isan@city.kitsuki.lg.jp